

災害人文学研究会

2018年度第5回研究会

ドキュメンタリー映画『被ばく牛と生きる』を観る

主催：東北大学東北アジア研究センター
共催：指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点
災害人文学ユニット

CNEAS

指定国立大学
災害科学 世界トップレベル研究拠点

許されざる命の物語

ドキュメンタリー映画

被ばく牛と生きる

経済価値がないと言われた家畜の“いのち”の重さとは……

存在が許されない被ばく牛と

その命を守る農家たちの5年間の記録！



ナレーション
竹下 景子

監督・編集：松原 保

プロデューサー：榛葉 健

「うたごころ」
「with... 若き女は美術作家の生涯」

撮影：名木 政憲

音楽：ウォン・ウィンツァン

整音：ガリレオクラブ 吉田 一郎

題字：日野 松白

協力：「希望の牧場・ふくしま」「原発事故被災動物と環境研究会」

製作：パワーアイ / 2016/104分/カラー/16:9

2018年11月13日(火) 18:15～20:30

プログラム：

映画上映 | 18:15～20:00

意見交換 | 20:00～20:30

〈登壇者〉

松原 保 氏

(『被ばく牛と生きる』監督)

小倉 振一郎 氏

(東北大学大学院農学研究科陸圏生態学分野 教授)

申込・問い合わせ先：

saigaijinbungaku@gmail.com

申込者氏名、連絡先(メールアドレス・電話番号)、参加人数を明記の上、件名を「被ばく牛と生きる参加申込」としてお申し込みください。

※人数把握のため事前申込をお願いしていますが、当日の直接参加も受付します。多くの方の参加をお待ちしています。

参加費：無料

参加定員：100名

会場：

東北大学川内北キャンパス

講義棟B棟101室

(宮城県仙台市青葉区川内41)

交通アクセス：

・駐車場はございません。地下鉄東西線をご利用ください。

(最寄駅/キャンパス直結：川内駅)

・東北大学インタラクティブマップでは位置情報の取得が可能です。「川内 講義棟B棟」と検索してご利用ください。

(<http://www.tohoku.ac.jp/map/ja/>)



東日本大震災に対応する形で、文化人類学・宗教学・歴史学は災害復興や防災に関わる調査研究事業を行うようになりました。従来、これらの学問分野は基礎研究を基軸とし応用的な側面は副次的な扱いでしたが、震災以降そうした状況は変化しました。具体的に言えば、文化人類学や宗教学は民俗芸能などの無形民俗文化財がもつ震災復興への役割についての実践的調査研究を、歴史学は地域の歴史文書資料に関わる保全活動を行ってきました。本ユニットは、これまで蓄積されてきたこれらの分野における災害に関わる実践的研究の成果を踏まえ、新たなる研究領域の開発をふまえて、さらなる発展と総合化を行うことを目的とします。

災害の状況や体験者の証言、失われつつある地域の伝統行事や芸能などを記録し、背景の物語を交えてわかりやすく紹介する映像記録は、防災教育や被災地の歴史文化の継承・発展を喚起する媒体として文化財という意味もあります。東日本大震災に関連する映像は膨大であり、ドキュメンタリー映画だけでも数百タイトルが製作・上映されています。震災映像による地域社会の防災力を、震災前だけでなく震災後の災いを防ぐという意味も含めて活かすべく、国内はもちろんのこと海外の記録映画の製作者・研究者との研究会の開催および情報発信を通じて、震災映像をつくる・観る・伝える文化の発展と活用の方法論を探ります。

災害人文学ユニット ウェブサイト：<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/unit/disaster/>

あなたは経済価値が無いからと言って、 被ばく牛の殺処分にご同意できますか？

原発事故から2か月後、国は“警戒区域内にいる全ての家畜を殺処分する”指示を出す。避難を強いられる農家は、涙を飲んで殺処分に応じるしかなかった。しかし国の方針に逆らい、少数の畜産農家が被ばく牛を生かそうと決意。住んではならない警戒区域の中に住み、また数十キロ離れた避難先の仮設住宅から通い、被ばくした牛の世話を続けている。被ばく牛を生かす唯一の道、「大型動物による世界初の低線量被曝研究」。国策による事故でありながら、国は人類にとって必要なこの研究から手を引いていく。事故翌年、牛に原因不明の白斑が出現。大学研究者は原因究明に乗り出すも、被曝との因果関係を立証するには、数年の時間がかかると言う。国の支援もなく、故郷も仕事も奪われ、それでも売り物にならない被ばく牛を生かし続ける畜産農家の心情を5年間にわたって丁寧に記録したドキュメンタリー映画です。

被ばく牛を生かし続ける農家の群像を描く

吉沢正巳さん

南相馬市と浪江町にまたがる牧場で300頭以上の被ばく牛を生かし続ける。被ばく牛は原発事故の生き証人との考えから、牧場名を「希望の牧場」に変えた。日本全国、宣伝カーに乗り、原発事故の悲惨さを訴えている。

池田光秀さん

原発の立地村・大熊町で5代目となる畜産農家。小規模経営のため、平日はサラリーマンとして働く光秀さん。賠償金を取り崩し、牛の餌代に充ててきた。夫婦で愛情深く牛を育ててきただけに、殺処分には断固反対している。

山本幸男さん

30年以上浪江町の町会議員を務め、原発を推進してきた有力者。牛を生かすことは故郷を守ることに通じるとの信念を持ち、避難先の二本松市から浪江町の牧場に通い続けている。現在は南相馬市に居住。

柴開一さん

浪江町の中でも最も放射線量が高い地区にある牧場主。50年近く牛と共に暮らしてきたが、柴牧場の隣の空き地が汚染物の置き場指定されたため、重大な決断をすることに…。

意見交換 登壇者紹介

松原 保

(まつばら・たもつ)

1959年大阪生まれ。

1986年東京の番組制作会社に入社。テレビ番組やCM、企業PRなどを数多く手掛けてきた。2008年パワーアイの代表に就任、シンガポールのヒストリーチャンネルやブータン国営放送と、日本人として初めて国際共同制作を行った実績を持つ。日本人が持つ「心の文化」を世界に向けて大阪から発信しようと、海外の放送局との国際共同制作を模索している。『被ばく牛と生きる』は初監督作品となる。

小倉 振一郎

(おぐら・しんいちろう)

東北大学大学院農学研究科陸圏生態学分野 教授
農学研究科附属複合生態フィールド教育センター副センター長
東北復興農学センター副センター長
博士(農学)。専門は草地学、家畜飼養学。

上映作品：『被ばく牛と生きる』